

令和7年度 津谷中学校 総合的な学習の時間（向が丘楽習） 計画

	日時	時数	内容	その他
1	4月	1	1年間の流れ・計画について	全校でガイダンスを行う。個人探究として進めることを周知する。 今年度も海洋教育をベースにテーマを考えさせていく予定。 1年生が初めてなので、不安な部分は補足を予定。 ※昨年度は、1年生のみウェビングを実施。
2	5月①	2	講話1 地域を知る 自然、地理、歴史、防災など	インプットとして講話を数回設ける。講師の先生の都合で内容は前後する。 昨年度、来校していただいた先生にも内容を変えて講話してもらう予定。 講師の予定【小野寺佑紀先生、大内康弘さん、気仙沼市役所危機管理課、東北大学須賀先生、KUBU佐藤東晃さんなど】
3	6月①	2	講話2	講話の後に個人の振り返りの時間を設ける。1時間講話、1時間振り返りやテーマを考える時間を設け、生徒が考える時間を確保する予定。 同時進行でテーマを考えさせる予定。（昨年度は夏休みの課題だったが、今年度は夏休み前に実施） 6月下旬にテーマに関するアンケートを実施し、ゼミを分ける。 教員の担当は1ゼミ2名を基本とする。
4	6月②	2	講話3	ゼミの数や内容は生徒のテーマを見て決定する。 生徒の作成した資料の提出先はロイロノートとするが、作成で使用するアプリ等はロイロノートに限らない。 今年度の反省として、最終的なレポート、まとめ冊子を作成するときのために作成の仕方は統一する部分を周知する。
5	6月③	2	講話4	昨年度の反省から、テーマについて考えを上げたり、深めたりする時間として、講話とは別に教師のブースを作り、生徒と対話する時間を設ける案もある。 テーマを考える中で教師が考える手助けをする。自分ごととして考えられるか、探究として進められるかなど。
6	6月④	2	講話5	
7	7月①	2	課題発表会	ゼミ毎に発表を行う。昨年度の反省から質疑応答の時間を設ける。 発表会の前（6月中）にスライドの作成や発表の方法の基準を周知する時間を設ける。向楽の時間以外で教科の中でできる場合は教科で行う予定。 ゼミ担当教員がファシリテーター、司会は生徒が行う 発表①→質疑応答→発表②→質疑応答→・・・ 発表する内容は、テーマ、設定理由、対象など。最終ゴールで自分が何ができるのかを考えさせたい。昨年度は最初のテーマが地球規模など壮大なものが多かったので、発表する前に自分は何ができるのか、実際に行動することができるのかなど身近なものとして捉えられるように考えさせたい。
8	7月②	2	情報の収集1	ゼミに分かれて実施する。 図書室など利用できるものは利用させる。 なお、今年度は、2階中央廊下に特設の探究に関するコーナーを設置する予定。自由に生徒が閲覧できるようにする。
9	7月②	2	情報の収集2、フィールドワーク①	バスを利用するフィールドワークは実施1カ月前には、生徒へアンケートを実施し、計画を立てる。（今年度は夏休み前1回、夏休み明け1回を予定している）
	8月		情報の収集、フィールドワーク（夏休み）	フィールドワークは全員が実施できるようにする。（zoomなども可） 全校で設定したフィールドワークの日とは別に、ゼミ内で講師を呼び、講話や体験を行うことも可。海洋のゼミで河川に行くなど。
10	9月①	2	情報の収集3、整理分析1	校内でできる検証や観察・実験等は担当教員の周知のもと、いつでも行える。また、外部機関とのメール、zoom、FAX等のやり取りも担当教員のもとで実施可。
11	9月②	2	情報の収集4、整理分析2	基本的に教員の情報共有は実施前後で行い、どの教員も生徒の状況やゼミ毎の進捗を把握できるようにする。 昨年度の反省から、情報収集で得た内容を分析する方法を教える必要がある。情報を集めてまとめるだけにならないように指導する部分は指導する。分析の仕方（数値化、グラフ化、思考ツールなどを活用させる）
12	9月③	2	情報の収集5、整理分析3、フィールドワーク②	
13	10月①	2	まとめ・表現1	昨年度の反省から、ゼミの中で生徒同士で意見交換しテーマについて考えを深めさせるために、発表前にお互いの進捗や内容を確認させるなど交流の時間を設ける。意図的にゼミ内で小グループを作り意見交換の場を設ける、発表会とは別に発表できる場を設定するなど教師の働きかけが必要である。
14	10月②	2	まとめ・表現2	プレゼンテーションは、まとめ冊子として印刷も行うので、作成の基準を徹底する。プレゼンテーションの発表が、調べたことをまとめただけの発表にならないように、分析の段階でしっかりと数値化させたり、分析した結果から考察させたりして成果物を作成させたい。
15	10月③	2	まとめ・表現3	プレゼンテーションの作成については、基準を決めて作成させる。（枚数や内容、図の大きさ、字体など）
16	10月④	2	まとめ・表現4	
17	11月①	2	まとめ・表現5	
18	11月②	2	発表会①（ゼミ別）	ゼミ毎の発表を行い、訂正・修正などをする時間を設ける。 昨年度の反省から、発表→質疑応答→発表→質疑応答・・・とし、質疑応答の時間を設け、考えの共有だけでなく、深まりを持たせる。
19	11月③	2	まとめ・表現6	また、スプレッドシートで見学者が評価や感想を記入するシートを作成する。 全校発表会は、参観日に設定する。見学者は発表者の評価および質疑を行う。保護者やお世話になった事業所等への案内を出し、ブースを複数設けて一斉に発表する予定である。1人の生徒が複数回の発表を行い、見学者が移動して様々な生徒の発表を見る手法とする。昨年度の反省から、来場する方々には案内と同時に出席の有無のアンケートをQRコードで取る。質疑応答の時間の十分な確保、休憩時間の確保を行う。
20	12月①	2	発表会②（全校・参観日）	
21	12月②	2	振り返り（オープンバッジ）	ルーブリックによる振り返りを行い、オープンバッジを配付する。

【その他】

- ・総合的な学習の時間（向が丘楽習）は、個人探究学習を実施する（45時間）。その他、1年生は職場体験学習、2年生は仙台研修、3年生は修学旅行・伝統文化の伝承活動を実施する。
- ・毎週金曜日の5・6時間目に設定するが、講話は講師の先生の都合で日程を変更する場合がある。また、行事や出張等に変更する場合がある。